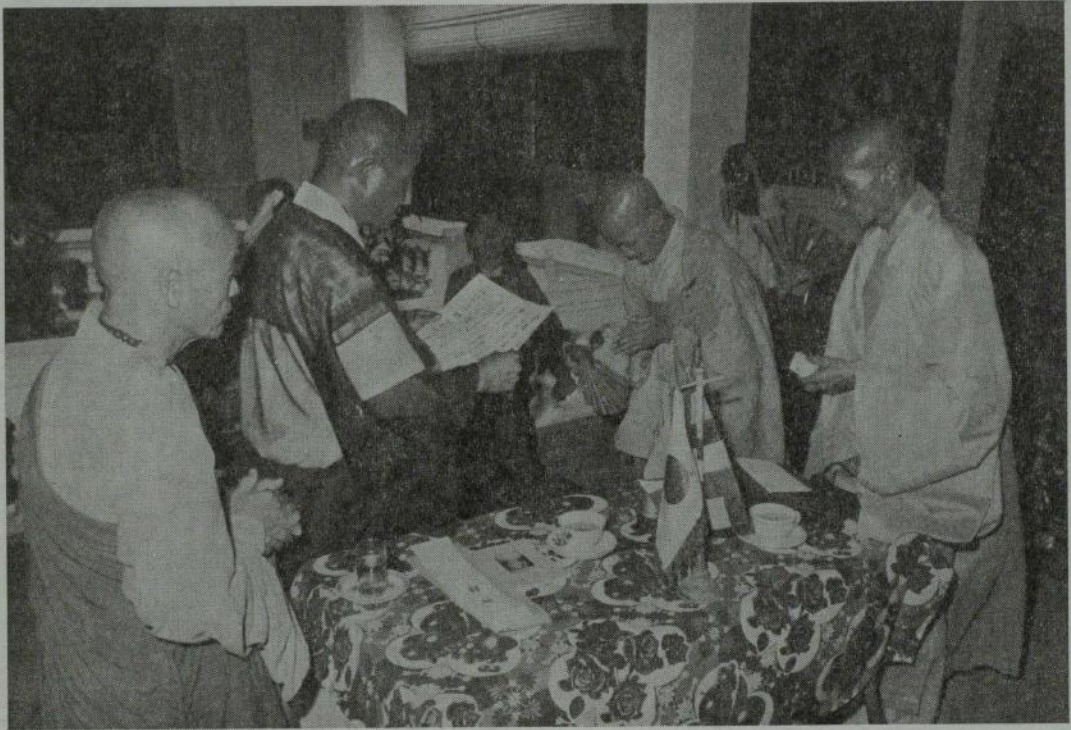


# 全仏

NO. 199

7 / 49



## 緑蔭の梵唄

梅雨があがると本格的な暑さが出てくる。東京などではうら盆会のハシリの梵唄が緑蔭をかすめて聞こえはじめるとホッとした風趣がよみがえる。

今年のうら盆は、国際航空エアバス事故で多くの方々が犠牲になられたその方たちの新盆である、心からご冥福をお祈り申しあげらる。しかし、お彼岸もさることながら、日本全国津々浦々にまで、地方色ゆたかな行事に駆けこんで仏教的ふんいきがみなぎるのはこのうら盆のときであろう。むづかしい仏教教義の宣布も大切なことだが、庶民の生活に根ざしているうら盆行事のような習俗を、ただ伝統にまかせて傍観せず、これを新しい時代に応じて積極的に発展させてゆく工夫が欲しいものである。(S・M)

智徳老師にベトナム孤児救済基金を手  
渡す伊東師(左より二人目) 六月六日  
・南ベトナム華嚴寺にて(三面参照)

# 盂蘭盆の現代的意義

雲 井 昭 善

(一)

毎年のことながら七月が近づくと、うら盆(お盆)の行事(関西は八月)がめぐってくる。われわれ日本人の生活様式の中には、一年を通じていろいろの行事があるが、凡そ祖先と結びついた行事という点、お盆の行事が最第一である。家庭では亡き祖先の精霊を迎えて僧侶の読経を願い、送り火で精霊を送る。この行事は遠くわれわれの祖先から伝わり、日本人の精神(こころ)の奥深くに根づいている。しかし反面、宗教行事というものは、近年とみに慣習的なものとして、もしくは日本の情緒的なものとしてうけとめられる傾向がないでもない。お盆がきたから何が何でも読経を依頼し、精霊まつりを、といううけとめ方、寺院側でもお盆だから棚経まいりをする、というふうな。

私は、もちろん伝統的宗教行事そのものは大切なことだと考えている。しかし、単に八気がすむVといった情緒的なうけとめ方ではなくて、お盆の行事が、出家者・在家者を含めてわたくしたちに、いったい何を問いかけているのかを

考える必要があるかと思うのである。ここでは、うら盆の言語学的な詮索はさしひかえて、うら盆を今日のな問題意識の中でとらえてみたい。

(二)

うら盆Vという行事は、元来「うら盆経」の記事にもつづいた仏事である。この経典によると――

仏の弟子だった目連が、亡き母への追憶にかられて神通力の眼でみまわしたところ、その母はあの世で餓鬼の生活をして飲食もみだされず骨と皮になつていてのを見た。悲しみの中で目連は、その母を救いたいと思い、仏にその方法を問うた。仏は、七月十五日が僧の自恣(じし)(反省日)であるから、その際に七世にさかのぼつての父母と、現在世の苦難の父母のために、飲食百味をお供えして多くの僧を供養するようにとさとされた。目連は直ちにそれを実行したので、母は忽ち餓鬼の苦を脱れることができた云々。

この経典には二つの要因がある。一つは、餓鬼に苦しむ母を救うための供養で

あり、他の一つは、自恣ということである。その中で祖先供養、祖霊供養はヴェーダ以来のインド伝統の行事であり自恣は、仏陀時代の僧団、僧伽(サンガ)にとつて大事な行事である。この二つが重なりあつたのが「うら盆経」である。しかも、思想的には精霊存続と来世存立を介して、現世とのかかわりあいの中で問うていたところに意義がある。祖霊供養は在家者に共通する行事であり、自恣は出家者にとつて大切な行事である。この二つが結合していることは、いったい何を意味しているのであろうか。

仏陀時代から、出家者にとつて、三日月に亘る安居(あんご)に際して、お互いに自己の行爲を反省しあう自恣が重要な意味あいをもつていた。そのことは、現代にあつても些かもかわりない。仏教者の原点は八エゴを告発し、超克するところにあるVと、私はつねづね考えている一人であるが、一年を通じて特に反省すべき自恣日を設定したことは、われわれに多くを語りかけている。しかもこの日に、祖先供養という行事を結びつけたところに、在家者、出家者に共通した問ひかけが提起されていたのである。

(三)

およそ仏教者(出家者、在家者に限らず)にとつて、最も肝要なことは、われ

われの心に巢喰うエゴをあくまでも超克しつづけることにある。しかしわれわれの周辺には、いかに自己中心の考えが横行しているかを誰しも気づくことである。とりわけ近年の高度成長の風潮は、われわれに精神的空白をもたらし、人間にそなわる物慾、私慾をもたげさせた。そのすがたは、餓鬼そのままだと言つて過言でない。

目連が餓鬼となつた母を救い出そうとした「うら盆経」の主旨は、ある意味ではむしろ目連の、いな現代人のわれわれに巢喰つている餓鬼の心を端的に言いあてたのではなからうか。母の苦しみは同時に目連の、わたしたちの苦しみであることをしらしめたところに、この経典の今日的意義がある。母親が救われることはたらちねの母に対する目連の報恩孝養であり、救いであつたが、逆に目連の救いが母親の救いでもある。八七世の父母をして餓鬼の苦を離れVという経意は、この世に生をうけた今のわたしたちの存在を、父母とのつながりの中で問ひかけ、祖先への追憶をよびさませる。精霊を迎え送るという宗教行事は、そこに意義をもつてであり、胸のいたみを感じるところに、亡き精霊との対話がひらかれるとおもう。

八月十六日、京都は大文字の送り日である。子供たちは八灯がともつたVとはしゃぎ、青年たちやエトランゼはシャッターをきるのに忙しく、老人たちは火が消えさるまで合掌する。そのとらえ方はいろいろあつても、大文字の送り火とい

う宗教性は、今日の若い世代とははるかに遠い。けれどもそれを眺める人の想いは、年を加えるにつれて年々かわって行くにちがいない。今年もまた、東山の夜

空をいるどる大文字の字が、見る人の心にさまざまな情感をかきたてる日も近づいてきた。

(大谷大学教授・文博)

# ベトナム孤児救済資金

現地  
贈呈式

ベトナム戦争孤児救済の目的で結成された、ベトナム難民救済日本仏教徒委員会の代表七名は、伊東堅純師を団長として六月五日、空路羽田をあとにした。

昭和四十七年の暮れ、折しも第二十回全仏青森大会を契機としてスタートを切ったこの委員会は、黒田白純師(曹)を委員長とし、本部長に郡司博道師(曹)を迎え、各宗の若手有志が協力して、柴又帝釈天、西新井大師、美鴨とげ抜き地藏、浅草寺、横浜孝道教団その他の大寺院の境内をはじめ、都内各所の街頭に立つて募財運動を展開し、ようやく本年の四月に目標額の五百万円に達した。

翌六日、サイゴンの陽光は、強烈な暑さであった。かつて日本に留学していた積智広師が、瘦せ細った姿で出迎えてくれた。智広師の寺は市から北へ十五キロ行ったジャーティン省ツードク町にある。われわれは法衣に身をつつみ、五十数名の老若比丘や信徒を迎えられ本堂へ案内された。

誦経ののち、智広師の師匠である積智徳師にお会いし、ホールに案内され、中央の壇上に座を占めた。智広師がマイクを手にして、われわれの来意を万場告

げ、ついで伊東団長が挨拶をなし、「この救援金は、一九七二年末から東京都内の街頭や、寺院で数千名に上る日本国民から頂いた浄財である。ぜひこれを孤児の収容施設建設のために役立ててほしい。完成の晩には再度皆さんと会い、喜びを分かち合いたい」と述べ、智徳老師

に対して贈呈目録と現金を手交した。万場われんばかりの拍手であった。五十名に上る少年僧はすべて孤児たちで、智広師が彼等を一手にひきうけ教育しているという。われわれは別れざわ、彼等の一人一人と握手を交しながら、立派に修行して、仏法のため祖国興隆のため努力精進してくれるよう激励した。

## 全仏理事会

# 新理事長に神田師

## 48年度の決算など承認

去る六月六日午後一時より東京本願寺専修学院において、全仏理事会が開催され、上程された議案について慎重に審議を重ね、それぞれ左記の通り決定された。

議案第一号 理事長交替について

浄土真宗本願寺派内局交替につき、太田淳昭師に変わり、神田寛雄師を新理事長に選出。

議案第二号 昭和四十八年度全日本仏教会事業報告について  
承認

議案第三号 昭和四十八年度全日本仏教

会歳入歳出決算について

承認

追加議案 韓国花まつり訴訟について

前号に掲載の通り、国際専門委員会より諮問のあったもので、審議の結果、保留ということになった。内政干渉を心配する声が多く、またWFBセンターとして支援を表明するようにしてはという意見もあったが、充分考慮した上で行動すべきであるということになり、今回は保留となった。

報告事項(1)昭和四十九年度全日本仏教徒会議開催について

# 暑中御伺い

浄土宗 知恩院  
総本山

〒605 京都市東山区林下町  
電話(〇七五)五四二二二二

## 浄土宗宗務庁

〒605 京都市東山区株下町四〇〇  
電話(〇七五)五四一七三三

浄土門主	岸 信宏
宗務総長	稲岡 覚順
総務局長	松平 智禪
教学局長	稲岡 法純
財務局長	水谷 澂道
社会局長	飯田 信弘
総長公室長	滝沢 教夫
宗務支所長	野村 宗春
浄土宗開宗八百年記念慶讃事務局	
事務局長	梶原 重道
庶務部長	大橋 良憲
企画部長	飯田 信弘

今秋十一月六日、京都知恩院和順会館で開催することを報告、承認された。報告事項②日本仏教文化会議開催について

八月二十六、七日の両日、箱根において「人類の未来と仏教」をテーマに開催することを報告、承認。

報告事項④アピール委員会についてアピール委員会委員について報告、承認された。

なお、当日の出席者は左記の通り。

(順不同敬称略)

浅井堅教、山本スギ、奥田行朗、長谷川靈信、野村宗春、南谷惠澄、黒田白純、熊野竜夫、伊藤治雄、貝山宣泰、清水谷孝尚、西口公敬、神田寛雄、椎谷健(岡野正道代理)

事業報告(48年度)

一、加盟仏教団体相互の連絡・提携および親睦

48・4・8 日本仏教鐘仰会「花まつり」後援

4・4・14 千葉県仏役員総会出席

// 真宗大谷派慶讃法要参列

5・5 親鸞聖人御誕生八百年立

要参列(於東京本願寺)

7・11 日本仏教鐘仰会「都民お

盆の集い」出席

9・15 伊藤哲雄師本葬参列

10・22 黄葉宗万福寺管長晋山式参列

11・2 浅草寺五重塔落慶式参列

11・17 清水谷恭順師頌壽祝賀会出席

11・24 友松円諦師真理葬参列

11・25 川崎大師信徒会館落慶式参列

12・8 インド日本寺落慶法要参列

49・1・16 常光浩然師追悼会参列

1・17 全仏新年懇親会開催

1・23 全日本仏教婦人連盟修正会出席

3・13 山本スギ氏叙勲祝賀会出席

二、仏教化運動の総合的企画および促進

48・4・7 仏教化文化会議運営委員会開催

4・26 仏教化文化会議運営委員会開催

5・3 仏教化文化会議運営委員会開催

8・21 日本仏教化文化会議開催

11・28 文化専門委員会開催

49・3・8 文化専門委員会開催

三、諸官庁および関係諸団体との連絡

毎月一回日本宗教連盟理事会・幹事会出席

48・4・25 自民党との事務局懇談会

9・12 自民党税制調査会に要望書提出

11・28 税制問題について大蔵省主税局を訪問

49・2・9 宗教法人事務指導者研究協議会出席

2・18 自民党との懇談会開催

3・13 世界宗教者平和会議出席

四、各種仏教運動の実践および育成

毎月一回「全仏」発行

「花まつりポスター」・「全一仏教聖典」の普及

48・5・25 26関東甲信越静ブロック会議開催

6・26 27第21回全日本仏教徒会議全仏結成20年記念池上本門寺大会開催

6・26 「全仏20年のあゆみ」発行

9・18 真言宗醍醐派訪問、加盟依頼

10・9 税制特別委員会開催

12・4 税制特別委員会開催

49・2・13 「仏教青年の集い」開催

2・26 全国的仏教青年会を作るための委員会後援

3・29 税制特別委員会開催

五、各国のWFBセンター及び各国仏教団体との連絡

48・5・1 WFBユネスコ委員に日本代表村野宣忠氏を推せ

5・2 んした旨WFB本部へ通知す

5・20 WFB本部建物落成に際し寄付金三八〇ドルを送付

49・2・4 元WFB本部会長G・P・マララセーケーラ博士逝去に対し弔電を送る

49・2・4 第十一回WFB大会テーマとして「人類の危機を救おう仏教で」を日本WFB支部として同本部へ送る

2・5 WFB本部あてに台湾仏教会に対する日本支部としての態度を表明す

3・26 WFB本部あてに、WFB日本支部新役員名簿を送付す

六、世界仏教徒会議への参加及び文化交流の促進

48・8・23 27韓国ソウル市におけるWFB常任理事会へ末広愛邦理事長、柳了堅国際局長を派遣

8・17 WFB本部建物落成祝典へ中山理々師を派遣

七、仏教及び仏教徒による国際親善及び文化交流の促進

48・5・22 WFB本部建物落成に際し阿弥陀如来像を贈る

昭和48年度財団法人全日本仏教会歳入歳出決算書

歳入	1金	34,940,950円	歳入予算高
	1金	33,814,995円	歳入決算高
歳出	1金	34,940,950円	歳出予算高
	1金	33,389,498円	歳出決算高
	1金	425,497円	歳計剰余金
内訳	1金	425,497円	銀行預金

監査の結果証憑も完備し収支が適正に行なわれていたことを認めます。

昭和49年5月10日

監事 久保 堃 太 清 ㊟  
監事 船 口 暉 子 ㊟

歳入の部

科 目			本年度 予算額	本年度 決算額
款	項	目		
1.負担金			31,175,600	30,080,260
	1.各宗派	各負担金	27,649,600	27,366,260
	2.各団体	各負担金	3,526,000	2,714,000
2.寄付金			200,000	0
3.未納徴収金			700,000	756,800
4.基金果実			757,020	772,770
5.雑収入			400,000	496,835
6.繰越金			1,708,330	1,708,330
歳 入 計			34,940,950	33,814,995

歳出の部

科 目			本年度 予算額	本年度 決算額
款	項	目		
1.事務局費			19,926,330	19,842,410
	1.人件費		10,826,330	10,962,037
		1.職員俸給	5,588,000	5,567,340
		2.諸給	3,763,000	3,761,221
		3.厚生費	769,000	681,395 952,081
		4.退職積立金	706,330	(245,751) 予備費より 充当
	2.事務費		3,700,000	3,504,954
		1.借館借室費	1,200,000	1,200,000
		2.通信費	1,250,000	1,068,084
		3.消耗品	150,000	152,910
		4.光熱費	200,000	198,120
		5.備品費	450,000	447,900
		6.印刷費	300,000	289,140
		7.雑諸費	150,000	148,800

科 目			本年度 予算額	本年度 決算額
款	項	目		
	3.旅費		1,700,000	1,686,336
	4.関西事務局費		1,600,000	1,600,000
	5.渉外費		2,100,000	2,089,083
2.総務局費			4,130,000	3,855,883
	1.会議費		1,780,000	1,540,681
		1.理事会	170,000	177,336
		2.評議員会	630,000	620,290
		3.各種委員会	680,000	451,442
		4.諸会議費	300,000	291,613
	2.共通事項処分費		1,100,000	1,077,792
		3.調査研究費	250,000	237,410
		4.記念事業費	1,000,000	1,000,000
3.組織局費			3,800,000	3,513,284
	1.組織強化費		2,450,000	2,390,987
		1.組織強化費	800,000	762,291
		2.国内仏教徒会議費	1,300,000	1,288,370
		3.講習会費	350,000	340,326
	2.時局対策費		1,350,000	1,122,297
4.国際文化局費			6,480,000	6,081,871
	1.国際運動費		3,580,000	3,244,627
		1.WFB関係費	400,000	144,678
		2.国際仏教交流費	2,750,000	2,743,955
		3.渉外費	430,000	355,994
	2.文化会議費		850,000	823,529
		1.文化会議費	650,000	645,929
		2.紀要作成費	200,000	177,600
	3.教化費		700,000	640,145
		1.教化諸費	700,000	640,145
	4.機関紙発行費		1,350,000	1,373,570
5.雑費			104,620	96,050
6.予備費			500,000	(245,751) 退職金へ 充当
歳 出 計			34,940,950	33,389,498

# 暑中御見舞い申し上げます

## 曹洞宗々務庁

管 長	岩本勝俊
宗務総長	山田義道
参 議	田辺哲崖
参 議	宮前鳳洲
教学部長	岡田巳成
総務部長	田中亮三
教化部長	小形大禅
財政部長	伊藤治雄
社会部長	島田久成
広報室長	永井孝道
秘書室長	大竹明彦

## 大本山永平寺

貫 首	佐藤泰舜
副貫首	山田靈林
西 堂	清水浩竜
監 院	宮崎文輝
後 堂	中村道融
副監院	鈴木村光
副監院	北野祖道
外 役	寮一良同

## 曹洞宗 大本山 総持寺

貫 首	岩本勝俊
副貫首	乙川瑾映
監 院	成田芳髓
他 役	寮一同

## 臨済宗妙心寺派

### 宗務本所

管 長	梶浦逸外
宗務総長	江西寛堂

## 財団法人 国際仏教興隆協会

名誉会長	岸信宏
会 長	賀屋興宣
理事長	巖谷勝雄
役 員	一同

〒133目黒区中目黒五十二四一五三  
 祐天寺内  
 〇三(七)一七六〇八(直通)

## 真言宗智山派宗務所 総本山智積院法務所

〒005 京都市東山区東山七条  
 電話〇七五―五四一―五三六一

管 長	竹村教智
宗務総長	別所弘因
寺務長	小沢照禧
総務部長	岡田昌道
教学部長	岡本実良
法務部長	斎隆套
教化部長	齋隆套
出張所長	小宮勝憲
別院執事	小宮勝憲

## 大本山 成田山新勝寺

千葉県成田市成田一  
 電話〇四七六―三二―二二一

## 社団法人

### 全日本仏教婦人連盟

会 長	大谷智子
副会長	一条智光
〃	岡野貴美子
理事長	山本スギ
事務局長	船口暉子

## 事務局

〒156東京都世田谷区桜上水  
 四一九一七

## 財団法人

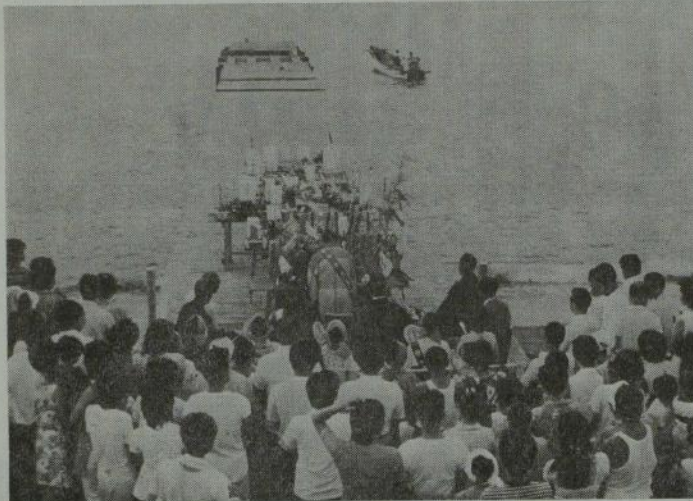
### 全日本仏教尼僧法団

新宿区大京町三十二慈母会館  
 電話(三三五)〇四二四

総 裁	大宮智栄
副総裁	花山院慈薫
〃	加藤真成
理事長	北川教全
副理事長	沢田教然
〃	梶山智弘

# 盆の仏衆

新島は東京から一一八キロ、伊豆下田から四一キロの海上にうかぶ大島を基点に、太平洋上を南に伸び雁行して点在する七つの島の内の一つ、東西三・二キロ、南北一一・五キロ、面積約二二・六平方キロ米、人口は属島の式



根島を含めて約四千名、土質は流紋岩により形成され、島の南部には建築材として知られている抗大石を産出する向山が隆起し、北部に

は本島最高峰の宮塚山がそびえている、南北に細長いひょうたん型の島です。本島は、事代主の命の御子第三王子が諸神をひきいて渡り治められたと伝えられ、これに関する神が各所にまつられていますが、島独特の風俗の一つとしてお盆の行事を紹介いたします。

八月十三日から十六日まで

## 新島のお盆

……の四日間には旧の御盆になります。都会を離れた各地においては未だに昔ながら数々の行事が伝え残されています。先祖をうやまい仏をおがみ、神妙のうちにも楽しいひとときを過ごすようです。新島においても島独自の行事が種々行われます。墓地は長栄寺の一角にあり、島の仏様はすべてこの墓地に納められています。墓地のことを島の人は「だんとう」と呼んでいます。常にきれいにされており、島の

人々の信心の深いことが容易にさっせられます。

お盆の十六日には灯ろう船を海に流す行事が行われます。お年寄りを島では、おじいさんを「いんじい」おばあさんを「うんばあ」と呼んでいます。お寺のお坊さんを先頭に、赤い布の鉢巻をしたうんばあ数名が、たいこをたたき、経文をとこなえながら、長栄寺の山門を出て、町中を通り、前浜の棧橋まで行進すると、その年のうちに亡くなった新盆の家々より仏をまつた灯ろう船を持ち寄ります。棧橋に作られた祭だんに並べられ、

お坊さんの読経、遺族の焼香が行われ多くの親族見物客の見守る中を棧橋

の先端より船にのせられ、あかりをともし、沖合いはるかに運ばれて、ひと船、ひと船、読経のうちにおりからの潮に下ろされて、さざ波にゆられ夕やみせまる暮海に流される美しくも、もの悲しく遺族の方はもちろんのこと、何の縁もなき観光客の中にも、目がしらをあつくしている風景は、いかにも新島らしき行事の一つにて、この先永久に続けられる島の風物詩の一つです。

(文京区立八中三年 富田俊正)  
文化専門委員 島田喜久子推薦  
【写真は棧橋につくられた祭壇に並んだ灯ろう船を供養する人たち】

# 暑中御伺い

## 天台宗務庁

宗務総長 神原玄祐  
総務部長 守山俊朝  
財務部長 田中俊晃  
教学部長 生田孝憲  
社会部長 長純満  
一隅を照らす運動  
事務局長 上野智信

## 総本山 四天王寺

全仏理事 南谷恵澄  
全仏評議員 塚原徳応  
全仏評議員 吉田秀映

## 真言宗醍醐派

管長 岡田有秀

葉上照澄師らが出席

第二回世界宗教者  
会議、来月開く

既報のとおり、八月二十八日から九月三日にわたってベルギー・ブリュッセル市のルーベンカトリック大学において、世界各国の宗教代表二百余名を集めて開催されるが、日本仏教界からは、葉上照澄師、中山理々師が参加する予定である。その他日本からは神道、キリスト教、諸教、オブザーバーなどあわせて二十三名が参加する。

代表団は八月二十五日午後十時三十分羽田発の日航機四〇三便にて出発し、九月九日夕刻東京へ帰着することになっている。

事務総局録事 (六月)

- 五日 局内会議  
文化会議関西運営委員との打合せ(京都)
- 六日 理事会
- 七日 東北ブロック会議(盛岡)
- 十二日 局内会議
- 十九日 局内会議
- 二十日 WFB常任理事会出席
- 二十七日 参院立候補者陣中見舞
- 二十八日 ソートビル竣工披露出席
- 二十九日 局内会議

昭和四十九年七月一日発行  
七月号 第一九九号

暑中御見舞い申し上げます

新潟県仏教会

新潟市古町通 番町 如来寺内

会長 土田 真也

事務局長 食 茂 良 海

青森県仏教会

会長 上田 頼石(対泉院)

事務局長 吉川 正英(願栄寺)

理事 泉山 益宣(涼雲院)

理事 大和 玄悦(長流寺)

京都府仏教会

会長 梶 浦 逸 外

副会長 渋谷 有 教

〃 横 井 鶴 洲

理事長 山 家 恵 誠

財団法人 日本仏教鑽仰会

理事長 中山 理々

神田事務所  
〒100東京都千代田区内神田二ノ三

ノ五 鎌倉ビル  
電話〇三一一二五六―四九一一

〒336浦和市高砂四丁目一三二―一八  
財団法人 埼玉県佛教会

会長 石川 隆 惇

副会長 大島 見 道

〃 石 塚 大 喜

事務局長 北之内 真 竜  
電話〇四八八―六一二二―三三八

発行人 桜井 大 乘  
編集人 清胤 徹 昭  
発行所 財団法人 全日本仏教会

東京都台東区西馬草一ノ五ノ五(東本願寺内)  
電話〇三(八四三)六三三四―一〇三